

ごあいさつ

盛夏の候、皆様におかれましては益々ご健勝にお過ごしのこととお喜び申し上げます。

この度日本橋高島屋におきまして、『第13回 黒木国昭ガラス作品展』を開催させていただき運びとなりました。これもひとえに皆様の日頃からの温かいご支援やお力添えの賜と心より感謝申し上げます。

一昨年より宮崎県立美術館を皮切りにスタートしました、NHKグループ主催・文化庁の後援による「琳派と広重の展開」展は、東京・大阪・名古屋・福岡・新潟で開催され沢山の皆様のご来場を賜り、高い評価のなか巡回展として大成功を収めることが出来ました。今年11/28からはいよいよイタリアのガラスの聖地ヴェネチアの世界に名高い国立カ・ペーザロ博物館で2ヶ月のロングラン展として開催されます。西洋のガラスと日本の美意識・文化・伝統・歴史・風土を融合させた作品をヴェネチアで展覧できますことは、私の約半世紀に及ぶガラス人生の中でも大きな意味を持つ機会であり、また近年にない大型の国際芸術文化交流として各方面より高い期待をいただいておりますこと大変嬉しく思います。

今展はヴェネチアに懸ける想いと、これまで数々の作品を創出して参りました綾工房創立20周年記念の二つの心を込めた展覧会として考えております。

約二十年の歳月で完結した「東海道五拾三次」シリーズ後、“広重から北斎へ”のテーマのもと、この度完成致しました葛飾北斎の「富嶽三十六景」シリーズ最新作、花器「凱風快晴」、オブジェ「東都浅草本願寺」の初披露を始め、私の創作の原点である琳派「光琳」と、新感覚のオールニューヴォー「新世紀ロマン」、世界初の二色被せから三色被せへと進化し続ける「綾切子」など、これまで以上に私の心血を注いだ新作の数々を発表いたします。

是非ご来場の上ご高覧賜れば幸いです。

ご来場を心よりお待ちしております。

平成20年(2008)7月30日(水)～8月5日(土)  
日本橋(東京)高島屋6階 美術画廊

黒木 国昭



